野田人物語

のだゆかりのひとびと

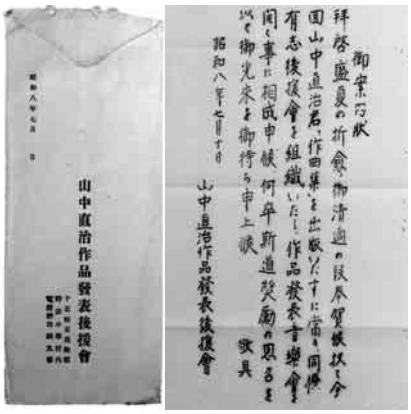
童謡作曲家・山中直治⑦

苦労の末に世に出た生前唯一の作品集

昭和8（1933）年に刊行された「山中直治童謡曲集」は、生前出版された直治の唯一の作品集です。「丘を越えて」で知られる作詞家・島田芳文の尽力によって出版されました。

しかし、出版までには残された資料から推察すると、紆余曲折があったようです。

奥付には発行日が8月10日となっていますが、直治が作詞家の斎藤信夫宛に出した手紙には、「7月上旬に出来る予定」と書いていることや「山中直治作品発表後援会」が出した案内状に『…今回山中直治君「作品集」を出版いたす



昭和8年に開催された直治の作品発表会の案内状

百位いどうにか売りさばく予定のもとに出版を決行すること、いたしました…」と書いています。

手紙によると、自身での「買取り分」も随分あったようで、1冊50銭とはいえ、500部を売りさばくには、かなりの労力が必要だったのでしょう。

その後の斎藤への手紙にも、「…全売上高の一割或ひは二割は御骨折りの事故御茶菓子代としてさし上げる…こんな規約のもとに御話しして見て戴けませんでせうか…（中略）…もう四五日後に出来ますコロムビア総目録の中には私の写真と略伝とが掲載されます。楽器店でこんなものでも戴いてお話しに行って下さいましたら更に有利なこと、存じます…」と書き、とにかく多くの人たちへの販売をお願いしています。

斎藤信夫は、「里の秋」「蛙の笛」「夢のお馬車」などで知られる作詞家ですが、直治とは千葉師範学校の同窓生であり、作曲家と作詞家という関係以上に友人としても親交がありました。

作品集が最終的にどれぐらい販売されたかは不明ですが、昭和10（1935）年3月に斎藤へ出した手紙の中に「…私事童謡集の第二集を出版すべく只今清書中です…」と、次の作品集の出版へ向けた準備をしていました。※文中敬称略（次号へつづく）

2月の休日当番医

休日当番医での診療時間
外科・産婦人科＝9時～22時（ただし16時～19時は除く）
内科＝9時～16時（19時～22時は急病センターで行います）

日（曜日）	外　科	内　科	産婦人科
7日（日）	門倉医院（☎7124－5311）	スズキ皮膚科クリニック（☎7126－2285）	小張総合病院（☎7124－6666）
11日（木）	山崎外科内科（☎7122－2359）	うちだ内科クリニック（☎7127－8181）	アイレディースクリニック（☎7137－7661）
14日（日）	西村クリニック（☎7123－0050）	あら山こどもクリニック（☎7129－7149）	遠藤産婦人科医院（☎7124－7860）
21日（日）	しばやま整形外科（☎7120－5355）	むらた内科循環器科クリニック（☎7127－8800）	杉崎クリニック（☎7125－1070）
28日（日）	小張総合病院（☎7124－6666）	梅郷痛みと内科のクリニック（☎7126－1900）	川間太田産婦人科医院（☎7127－1135）

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド（☎7124-7272：コード6101）、または野田市ホームページ（http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html）で確認をしてください。

急病センター　☎7125-1188
▼内科（小児科）＝19時～22時（毎日）
▼歯科診療＝9時～12時（休日）

編集後記

▼8面で紹介した、「ふれあい喫茶つくしんぼ」の店長の平川和代さんは、取材で「いつも、スタッフ全員、大きな声で『いらっしゃいませ』ともてなしています」と笑顔で話してくれました▼障害者への理解を深めてもらおうとスタートした同店。今では、常連客でにぎわい、スタッフと楽しそうに会話する姿があちらこちらで見られます▼彼女たちの心がけの一つひとつが実を結んだように、市でもさらなる心のバリアフリーをめざして、さまざまな福祉施策の取り組みを進めていきます　（を）

市の木　けやき
市の花　つつじ
市の鳥　ひばり

人口と世帯（22.1.1現在）●人口＝157,231人（＋13）男＝78,971人（－25）女＝78,260人（＋38）●世帯数＝61,107世帯（＋41）●市の面積＝103.54㎢

市報のだ　第1061号　平成22年2月1日号／発行＝野田市（〒278-8550 野田市鶴奉7番地の1・☎04-7125-1111）／編集＝企画財政部秘書広報課